

# 読賣新聞

## 岩手北部地震

震も、まだ記憶に新しい。多数のけが人が出ていると言わ

日本列島がミシミシと  
きしむ。その音が聞こえ  
るかのようだ。

大きな地震が、またも  
東北地方を襲った。先月  
14日の岩手・宮城内陸地

## 想定外の地域も要注意だ

れる。住宅などの建造物も各地で  
損壊しているらしい。

揺れた範囲は、都市部から山間  
部まで幅広い。立て続けの地震に  
被災し、不安を募らせている人も  
いる。政府や関係自治体は、被災  
の状況を早急に把握し、救助・救  
援活動に漏れがないよう、万全を

尽くしてもらいたい。

揺れで地盤がゆるんでいる。雨  
も降った。がけ崩れなどの土砂災  
害にも注意が必要だ。

東日本では近年、大きな被害を  
伴う地震が相次いでいる。200  
4年には新潟県中越地震、昨年は  
新潟県中越沖地震もあった。

さほど地震が警戒されていない  
地域で起きている。岩手・宮城内  
陸地震でも、動いた断層は、これ  
まで専門家がほとんど注目してい  
ないものだった。

今回も、想定外だ。

震源は、地下100<sup>メートル</sup>以上と深  
い。岩手・宮城内陸地震は約8<sup>キロ</sup>  
だから、比べ物にならない。深さ  
をみて、この場所が震源となる危険  
性を示すデータはなかった。

ところが、最大震度は、「人が  
立っていられないほど」と言われ  
る「6強」に達した。特殊な地下  
構造だったらしい。

この揺れにより、家具などが転  
倒してけがをした人が目立つ。家  
屋も、壁や窓などが壊れた。

午前0時過ぎの地震発生も、市  
町村など防災関係機関の対応を難  
しくする。多くの人が寝入った時  
間帯だ。体制は手薄になる。

日本は「地震列島」と言われて  
いる。いつ、どこで大きな地震が  
起きるか分からない。まず一人ひ  
とりが備えを強化することが欠か  
せない。続発する地震は、その基  
本を思い出させる。

1995年1月の阪神大震災で  
は、犠牲者の9割は家具の転倒や  
建物の倒壊が原因だった。本棚を  
固定したり、住宅の耐震補強をし  
たりすることが、個人の身を守る  
うえでは何より大切だ。

政府は現在、地震防災と調査研  
究の最重要テーマに、東海、東南  
海、南海地震を据えている。首都  
直下地震や全国110の主要な活  
断層も重要視している。

こうした地震が起きれば、甚大  
な被害が予想されるだけに、当然  
の施策だ。ただし、これ以外の地  
域でも、地震防災への関心を常に  
喚起していかねばならない。